



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER,2-18-12 NISHIWASEDA,SHINJUKU-KU,TOKYO 169-0051,JAPAN

- 国際会長主題 「On the Move!!」「さあ 動こう!!」
- アジア会長主題 「With Pride and Pleasure」「誇りと喜びを持って」
- 東日本区理事主題 「みんなで力を合わせて、1・2・3」
- あずさ部部長主題 「入会時の“ときめき”と多くの経験をワイズのために！」
- 東京西クラブ会長主題 「いつも自然体で！ 楽しい例会参加を」

2020年3月号

NO 522

今までは、あなたがたはわたしの名によっては何も願わなかった。願いなさい。そうすれば
与えられ、あなたがたは喜びで満たされる。
新約聖書ヨハネによる福音書16章24節

新型コロナウイルス感染症の流行に想う 神谷幸男

城南五山は5月以降

世界的流行になってしまった新型コロナウイルス感染症のニュースが毎日四六時中流れています。この流行は小中学校の一時閉鎖にとどまらず、産業界、政界にも影響が大きく及んでいます。

閣内に新型コロナウイルス感染症対策本部が設置され、厚生労働省は「新型コロナウイルスを防ぐには」なる文書を公開したとか。私たちは先ずは感染しないように予防に努めましょう。

ワイズでも予防の一環として予定していた、あるいは定期的な集会を中止したとか延期したとか聞いています。

IBC 台北セントラルクラブのチャーター40周年の祝賀行事が3月13日から15日の3日間行われる予定でした。この祝賀行事自体の延期または中止したかは聞いていませんが、東京西クラブに、この大流行に配慮して祝賀行事に参加しないようにとクラブ決議をしたとのメールが入りま

した。おそらく海外からのIBCのメンバーに対しても同じようにされたでしょう。

台北セントラルクラブはアジアを中心に11のIBCを持っており（日本には大阪土佐堀クラブと東京西クラブ）、これらの人々が一堂に会する集まりに参加できないことが、まことに残念な思いです。

私たちは、感染予防するのは独り自分の身のためでなく、たとえ全国の感染症を撲滅できなかつたとしても、流行の時期をずらすことによって、医療機関に患者が殺到して地域の医療体制が崩壊し、そのため重症者に十分な医療が行き届かなくなるとして死亡者の増加を防ぐこととなります。

昭和の初期の俳人作「月明りや沖にかゝれるコレラ船」のコレラ船が後世夏の季語になったとか。「コロナウイルス」も、後世早春の季語になるかも…悪冗談。

WHO ウォーキング3月の例会は、新型コロナウイルスの問題から、中止を決めました。山手線の日黒・品川間の内側の5つの超低山、“城南五山”は、昨年、国の重要文化財に指定された旧島津侯爵邸のある清泉女子大学など見どころが多く、前評判も高かったので、見学先の意向を確認して、5月以降の実施を検討します。

4月は、条件が整えば、予定通りに新座市の古刹・臨濟宗平林寺と、“智恵伊豆”といわれた、川越城主・松平信綱が、玉川上水に続いて開削し、武蔵野の原野を沃野に変えた野火止用水を中心に歩きます。平林寺には、東京ドーム約9個分の敷地に、クヌギ、コナラの雑木林が保存され、国の天然記念物に指定されています。新緑の散歩コースの森林浴で、ウイルスのストレスを癒しましょう。

以後は、移設してエンジンのかかった、豊洲市場周辺、野鳥とバラの谷津干潟を予定しています。

クラブ役員

- 会長 篠原 文恵
- 副会長 大野 貞次
- 書記 神谷 幸男
- 会計 高嶋美知子
- 担当主事 木川 拓

2月の記録		ニコニコ	
在籍者数 13人 (内功労会員) 1人	メネット 1人	クラブファンド(当月)	1円
出席者数 12人	コメント 0人	クラブファンド(残高)	163,498円
キーキャップ 0人	ビジター 8人	ホテ校ファンド(当月)	12,546円
出席率 100%	ゲスト 3人	ホテ校ファンド(残高)	58,216円
前月修正 -	出席者合計 24人	WHO参加者	36人

3月合同例会－開催中止

恒例の東京世田谷クラブとの合同例会は、3月19日（木）に開催を予定していましたが、新型コロナウイルスのため、東京世田谷クラブ・朝倉正昭会長と協議し、中止を決め、両クラブメンバーには、3月1日にお知らせいたしました。

卓話は、フードバンク主宰者・黒田和代さんでしたが、近い将来改めてお願いすることになります。

また、3月26日に予定されていた3月第2例会（事務会）は、会場であるウエルファーム杉並が当日は休館となるため、期日を4月2日（木）に変更して同会場で行います。

－ 2月第2例会(事務会)－

日時：2月27日（木）

19：00～19：45

会場：ウエルファーム杉並

出席者：大野、神谷、篠原、高嶋、
鳥越、本川、村野

<確認事項>

①2月の記録：確認した。

<報告事項>

①会計報告：都合により来月行う。

②3月7～8日開催予定だった次期クラブ会長・部役員研修会は新型コロナウイルス感染対応のため中止となった。

<協議事項=例会事項=>

▼3月例会（東京世田谷クラブとの合同例会）

新型コロナウイルス感染対応のため中止。

担当：石井、神谷、河原崎

内容（卓話）：黒田和代さん（フードバンク主宰）

▼4月例会

担当：大野、神崎、本川、村野

内容（卓話）：田上かつみさん

会場：ウエルファーム杉並 4F

▼5月例会

担当：高嶋、鳥越、吉田

内容（卓話）：交渉中

<協議事項=例会以外事項=>

①ブリテン4月号編集会議

担当大野さんから「4月ブリテンの構成予定と原稿依頼」が提出され、了承された。

②2020-2021年度クラブ役員：

会長から候補者が提案され、承認された。それぞれには、会長から伝え、了承を得る。

クラブ会長	篠原文恵
副会長	大野貞次
書記	本川悦子
会計	石井元子
地域奉仕	神谷幸男
地域奉仕	高嶋美知子
会員増強	吉田明弘
会員増強	本川悦子
国際・交流	神谷幸男
国際・交流	村野絢子
ユース	大野貞次
担当主事	木川 拓
WHO事務局	石井元子
監事	本川悦子
監事	鳥越成代
ブリテン	鳥越成代

（書記・神谷幸男）

台北セントラルに お祝いのカード

創立40周年を迎えるIBC台北セントラルクラブのお祝いのカードにメンバーが寄せ書きをして祝意を届けました。

3月13日～15日行われた祝賀行事には、クラブから、神谷・神谷M・高嶋・吉田さんがお祝いに参加予定でしたが、先方の助言もあり、取りやめとしました。

3月第2例会(事務会)案内

3月事務会を、期日を変更して下記のとおり行います・

日時：4月2日（木）19：00～

会場：ウエルファーム杉並

議案：

- ①5月以降の例会卓話者推薦
- ②東京世田谷クラブとの合同例会日程の調整
- ③クラブ会費の増減案
- ④クラブ経費の削減案
- ⑤ホテル学校への奨学金についての話し合い

今後の行事予定

◇DBC 京都ウエストクラブ 40周年記念祝会（5月5日・京都）
出席予定者：神谷、神谷M、高嶋

◇東日本区大会（6月6日・帯広）
出席予定者（2月27日現在）：
石井、神谷、河原崎、篠原、高嶋、鳥越、本川、村野、神谷M
（書記・神谷幸男）

ご逝去のお知らせ

当クラブメンバー・河原崎和美さんのご主人、河原崎九州男さんが、2月23日ご逝去されました。享年88歳での旅立ちでした。謹んでご冥福をお祈りいたします。

オリンピックの夢と追憶 —WHO 2月報告—

新型コロナウイルス感染の恐れと春一番の荒れ模様との天気予想、2月22日、JR原宿駅に集合したのは、36人。早速、明治神宮の鳥居をくぐりました。

神宮は、今年鎮座100年。参道の歴史パネルと、うっそうとした森を観て、本殿で折り返し、代々木公園に入り、64年五輪記念のオランダ選手宿舎へ。64年五輪のレガシーと言うべき、丹下健三設計の吊り屋根式の第1体育館は、やはり素晴らしい。

速足で表参道を下り、青山通りへ上った港区立青南小学校には、俳人、中村草田男の「降る雪や、明治は遠くなりけり」の句碑がありました。詠んだのは、明治から20年を経た昭和6年でした。

メトロ表参道駅から外苑駅までは、歩行距離を短縮するため銀座線を利用しましたが、一部は“濃厚接触”を嫌って徒歩。

CIプラザで合流して、昼食。温かい春の陽気が一転して、寒い北からの突風が吹き、厳しい時間帯でした。食事後は、梅窓院へ。郡上藩藩主青山家歴代の墓があり、その墓石のひとつが、キリシタン灯籠（織部灯籠）。

最後が、オリンピック運動の発信拠点の「オリンピックスクエア」。屋外の東京五輪、札幌・長野五輪の縮尺聖火台やピエール・クーベルタン男爵の銅像が撮影スポット。男爵は、IVYルック。竣工はしたもの、まだ近くには近づけない国立競技場の外周を半周して解散しました。

ワイズ関係参加者は、石井・吉田（東京西）、藤井（東京江東）、関（元石巻広域）でした。

（吉田明弘）

東京YMCAのHPで、WHOの予告と報告を写真入りで見られます。

http://tokyo.ymca.or.jp/communty/suginami_news/



昨年十一月、米国トレドで行われた次期区理事サミットの日本語、韓国語、スペイン語の通訳者。左から2人目が利根川恵子さん

同時通訳を実体験 —2月例会報告—

2月例会は2月20日(木)、ウエルファーム杉並で開催されました。毎年2月はTOF(Time of First=断食の時)例会です。

卓話者は、元東日本区理事、現在通訳者、翻訳家としてご活躍の利根川恵子さん(川越)。「英語同時通訳泣き笑い」というテーマでお話ししていただきました。

通訳には同時、逐次(一段落位づつ)、ウィスパリング(耳元でささやく形)という形がある。それぞれの長所と短所、通訳に国家資格はないという事、通訳前の準備の大変さ。専門用語や固有名詞、特にスピーカーの特徴やバックグラウンドの把握等、利根川さんに講義していただくだけではなく、実際に参加者に発言者の言葉を、通訳を通してイヤホンで聞き取るという実体験をさせていただきました。

設定は、この建物の館長(実際には吉田明弘さんが演じました)が日本語で建物の太宰治とのかかわり等を説明し、これを利根川さんが英語で通訳して、聴衆(我々)はハワイから見学に来た日系二世として、質問は英語でし、通訳さん(利根川さん)が日本語に訳し、館長が日本語で答えました。同時通訳の体験です。

皆イヤホンをつけ、スタート。館長役が話し始めるとほぼ同時に英訳が耳に入ってきました。その速さにこれは原稿を事前に渡

されているケースなのかなとか、改めていろいろな疑問が噴出してきました。英語のスピードにも驚きました。

通訳の醍醐味は、色々な人との出会いや幅広い知識の獲得。一方泣きどころは、原稿なし、音源無し、写っているスライドが小さい、ブースが蒸し風呂。スピーカーのアクセント、まとまらない話や答えになっていない答え。最後の「泣きどころ」に大いに納得しました。

卓話後の感想で、多くの女性が「憧れの仕事」と話されました。私もその1人ですが、誰もトライしたいとは話されませんでした。お話の中に「同時通訳スキルの習得と維持について」があり、その1、ひたすらシャドーイング、日本語と英語を並列して暗記等、利根川さんは現在も心掛けておいでとのことでした。皆の「ムリ〜」という声なき声が聞こえてくるようでした。今後の利根川さんのご活躍を心より応援しております。(鳥越成代)

例会出席者：<メンバー>石井・大野・神谷・木川・河原崎・神崎・篠原・高嶋・鳥越・本川・村野・吉田、<ビジター>利根川恵子・利根川太郎(川越)、花輪宗命・長谷川あや子(東京八王子)、小山久恵(東京サンライズ)、浅羽俊一郎(東京山手)、原俊彦・原俊子(富士五湖)、<メネット>神谷、<ゲスト>井上康子、池谷泉、石井真紀子

Change! 2022シンポジウム

2019-2020 年度東日本区 Change! 2022 シンポジウムは、2月1日(土)に東京 YMCA 社会体育・保育専門学校において開催された。

このシンポジウムは会員減少の危機感からいかにして会員を増強すべきかを東日本区に属する全メンバーが真剣に考えるべく開催され、2022 年までに会員数を1,245人に増強するという具体的な数字を掲げて全メンバーが取り組むべき決意を共有する会合であった。その共通認識として「Change! 2022 宣言」が採択された。下記に記す。そして、この活動がこれからも継続、発展していくことを願う。(神谷幸男)

Change! 2022宣言

私たちは、ワイズメンズクラブ国際協会の国際憲法および東日本区の定款に示されたモットーとクラブの目的に賛同し、誇りと喜びをもって、ワイズメンズクラブの会員となり、活動を行っています。

しかし、ここ数年、残念なことに、会員の高齢化、減少の傾向が強まって、活動の停滞も見られます。

このような状況に歯止めをかけ、これから将来もより活発で豊かな活動を継続、発展していくためには、私たちは今、行動に移すことが必要であると認識し、次のアクションを起こすことを宣言します。

私たちワイズ1人ひとりが現状に対する危機感を共有し知恵を出し合い、変えるべきことは勇気をもって変革し新しい取り組みについても謙虚に耳を傾け、柔軟でしなやかな発想をもって、現状を打破するための努力を惜しまず、必ずや、2022 までに目標会員 1246 人を達成する。

—西早稲田評議会報告—

あずさ部西早稲田評議会が 2月8日(土)、山手センターで東京たんぼぼクラブのホストにより開催された。

赤羽あずさ部長の挨拶では、台風 19 号の影響により延期された部大会が 12 月に順延されて、CS 事業のアジア賞と併催されて盛会となったこと、精力的に各クラブの入会式や公式訪問をされたことなどの報告があった。

※審議議案および結論

第1号議案 2020-2021 年度部役員承認の件：提案(省略)通り承認された。

第2号議案：2020-2021 年度次期部長承認の件：提案(長谷川あや子)通り承認された。

第3号議案：2020-2021 年度部選出代議員推薦の件：赤羽美栄子が推薦された。

第4号議案：2019-2020 年度 CS 助成金配分承認の件：提案(下記4件、各5万円)通り承認された。

*アジア賞作文コンテスト(松本クラブ)

*ベビーカーコンサート(甲府 21 クラブ)

*障がい者フライングディスク大会(富士五湖クラブ)

*台風 19 号被災地支援プログラム(長野クラブ)

各部の事業主査からの報告は配られた冊子で説明があり、特に会員増強が厳しいことが強調された。

最後に東京山手の浅羽会長から、色々努力を重ねたが今期末でクラブを解散する報告があり、苦渋の決断をされたメンバーの胸中を思った。

AYC 参加報告では、山梨県立大学生の藤井うららさんが、環境問題について発表後に写真撮影。

会場設営を変えて懇親会では5カ所のテーブルに分かれ、茶話会形式の歓談の時間が流れ、閉会となった。(篠原文恵)

YMCA Today

■ホテル学校の1年生は2月6日、ホテル椿山荘東京にて「立食パーティー」を開催しました。6か月間のホテル実習後に行われるこのイベントはサービスする側、される側の相互理解を目的に学生主体で企画します。実行委員により、用意された豪華な食事やデザート、そして学生たちは思い思いにドレスアップし、みんな満面の笑み! 大きな壁を乗り越えた学生たちは、ひとまわり成長した姿を見せてくれました。

■東日本地区 YMCA スタッフ研究会が南相馬(福島)で開催され、東日本地区の 9YMCA から 29 人が集い、東京 YMCA からスタッフ 4 人が参加しました。金迅野牧師(マイノリティ宣教センター主事)によるキリスト教理解ワークショップの他、被災地視察等を通じて学びを深めました。

■2月11日、会員部主催の「ソシアス 2019」が山手センターで開催され、会員と職員合せて 40 人が参加しました。各事業の活動報告の後、「これからの会員の在り方とは」をテーマにグループディスカッションが行われ、交流の時間を持ちました。

■全国 YMCA で取り組んでいるいじめ反対キャンペーン「ピンクシャツデー」が今年は2月26日に設定され、各地で様々な取り組みがなされます。東京 YMCA では教職員や子どもたちがピンクのものを身に着けてアピールや寄せ書きをしたり、高等学院主催の「弁護士による特別公開学校」では、いじめや差別についての学びを深めます。

(担当主事・木川拓)

意見交換

毎月15日に発信

Change! 2022

EMCニュース

ワイズドットコムで配信されます

☆☆ インタビュー ☆76☆
原 俊彦さんに聴く
 富士五湖クラブ
 * * *



一原さんは、東京・渋谷育ちですか。

「生まれは目黒の祐天寺です。でも当時東横線に並木橋という駅があって、駅前で父が薬屋を営み大学や農事試験場に試薬品や実験器具を納めていましたので渋谷で育ったとも言えます」
 一ずっと東京で。

「小学校入学前に埼玉に移りました。国鉄の駅から12キロ、田んぼと畑に囲まれた所でした。だから僕には都会的な感覚と田舎の素朴さが同居しています」
 一では学校は埼玉ですか。

「小学・中学時代余り勉強した記憶はありません。ただ、小学校4年の時、突然高校を卒業したばかりの実兄が代用教員としてクラスの担任になったのは晴天の霹靂でした。兄は学資を稼いで大学に進み、僕も憧れて同じ大学に行きました」

一大学では、学生YMCAに。

「そうです。今考えると高校時代に加須の礼羽教会でアメリカ人宣教師・アプタン先生と出会ったことが影響したのかも知れません。大学4年の中で1番大きな出来事は、2年生の時の“母の死”です。悲しさと絶望感の中、訪ねたのが大宮聖愛教会。そこでお会いしたのが学Yの大先輩・斎藤茂樹司祭でした。あれから55年、全てがああの時から始まっているのです」
 一就職は。

「最初に就職した会社で、思いと違い悩んでいたところ、学YのOB会で1年後輩に出会ったことがきっかけとなり、外資系の化学素材メーカーに転職しました。ユニークな製品を未開な市場に売り込む仕事でした。毎日がワクワクするくらい新しい経験と出来事の連続でした」

一13年後起業されたのですね。

「36歳で、特約代理店として独立しました。義兄の工場2階・3坪の小さい部屋を借りて浅草でスタートしました」
 一順調でしたか。

「幼稚園児が2人いて、家内には手伝ってもらい、病気でも休めませんでした。仕事面では、思いがけない出会いと高度成長と言う時代背景にも恵まれ、5年後に恵比寿に移転。息子にバトンタッチするまでの34年間、一度も赤字を出しませんでした。幸運な独立人生でした」

一今は、第2の人生ですか。

「6年前、70歳を前に息子に経営の全てを譲りました。一切口出ししないように、自宅も渋谷から世田谷に移し小さな開発室を作りました。そこで印刷屋にとって“夢のまた夢”…どんな素材、どんな曲面、凸凹にも短時間で簡単に、しかも安価で印刷が出来たら…見果てぬ夢を追いかけ毎日おシャカの山を作りました。確かな手応えを感じるまで丸5年掛かりました。そして一昨年、新会社をスタートさせました」

一これまでビルをラップしたり、小石やGパンに印刷したり、実験的な取り組みをしていますね。原さんは、文科系ですよ。

「そうなのですが、父が化学屋、母方は代々続く京染店です。そんなDNAがあるのかも、と感じています」

一ところで、淑子さんとはどこで。

「ある年の暮、彼女は会社の友達に連れられて大宮聖愛教会に来ました。礼拝が終わって司祭の

奥さんに『原さんは車で来ているので帰りに送ってあげなさい』と言われ自宅まで送って行ったのが最初でした。半年後、28歳で結婚しました」

一ワイズに入られたのは。

「40歳の時、学Yの1年先輩である飯島隆輔さん（当時東京YMCA 主事）に声を掛けられ、東京山手クラブに入会しました。でも8年間は、ほとんど幽霊会員でした。1989年に奈良昭彦さんから若いメンバーだけで新しいクラブを作るからと声を掛けられ東京サンライズクラブのチャーターメンバーになりました。そこに在籍した20数年間は、本当に楽しいクラブライフを満喫し、それが今に繋がっています」
 一東日本区理事を務められましたね。一番の思い出は。

「主宰した東日本区大会ですね。富士五湖クラブにホストをお願いし準備を進めていたところ大会8か月前になって、突然横浜国際大会委員会から、国際大会の国内参加を増やすために区大会は縮小するように、と強い要請が出されたのです。それまで1年間にわたって準備を重ねてきた富士五湖クラブのメンバーに説明もつかず、悩みましたが強行突破するしかなく、結果予定通りの開催に漕ぎ着けました。閉会式で感謝の言葉を口にした時こみ上げる涙を抑えられませんでした。理事退任後は、中央から離れて活動したいと思い、8年前に富士五湖クラブに移り、地域に根差した活動を楽しんでいます」

一座右の銘のようなものは。

「人間万事塞翁が馬です。悲しみ、不幸や挫折も振り返ってみるとこのマイナスがあったお陰でそれ以上の喜び、楽しみ、幸せな日々があったのです。だからこれまで体験したことはどれも無駄はなかった、が実感です」
 一有難うございました。

(吉田明弘)

私の大切な物③ 村野絢子

村野深秋の作品

夫の母は日本画家だった。その代表作が「F嬢」で日本画会において文部大臣賞に選ばれた作品で、我が家の玄関に無造作に飾っている。

義母は幼い時から絵を描くことが好きで絵の先生について満州にも行ったと聞く。その後、当時池上にお住まいの伊東深水の内弟子となって学び、昭和5年に第11回帝国美術院展に初入選した。

「他の多くの男性お弟子さんたちより早く入選しずいぶん恨まれた」と話していた。その作品は戦争中に人手に渡り、行方不明となり見ることは出来ないが、第11回帝国美術院展展覧会原色画帖(布張り)に旧姓谷口深秋で作品「春宵」を見る事が出来る。屏風を背に2人のお酌さんが座っている作品である。

後に西永福の義母の画室が出来たお祝いに深水先生がおいで下さり、生後6か月の赤ん坊を「可愛いね」とその場で色紙に描いてくださった。「繁



君像」昭和13年節分とあり、落款も押されている。繁は夫の名であるが宝物の1つである。

繁と結婚し、長女がお腹にいる時私をモデルに描いたのが、義母と私を繋ぐ「若妻」である。妊娠しているのが見る人に分かるから新妻でなく若妻としたと聞

いた。絹地に書かれた日本画は1本の線も書き直せない。義母の描いた丸髷の美人画は何故か哀しい女性を思い起こさせる、「女の歴史は忍耐の歴史だよ」との言葉と共に…。

長女のために立ち雛を色紙に胡粉で描き始めた夜、絵のお弟子さんたちとの席で倒れて亡くなった。63歳でお別れした義母を思う。



写真は池谷泉さんの撮影

山田さんご夫妻の近況

ケアマンションにおられる山田利三郎・紀子さんとの電話による近況をお知らせします。

入居が急に決まったため、当初は、心の準備もなく、すべてが初めての経験だったのでかなり戸惑われたようですが、今は、すっかり慣れて、楽しんでおられます。利三郎さんは、会話も明晰、声にも力強さがあります。施設内にクラブ活動があり、園芸クラブ

などに入られて、楽しんでおられます。紀子さんには、施設内では最年少ということで、新入居者の歓迎会などでは、いろいろ役割が回ってくるそうです。

利三郎さんの外出には、施設のスタッフが付き添います。

季節が良くなれば、近くのレストランなどで、夫妻が参加しての移動事務会を開くこともできるかもしれません。(吉田明弘)

編集後記

新型コロナウイルスの蔓延で世界中が混雑されています。科学技術の発展のおかげで敵の正体がだんだん明らかになり、対策が的確に進められるようになればこの騒ぎの終息も見えてくるでしょう。敵の正体がよく判らないという点で放射能対策と似ているように思いませんか。

原稿を執筆していただいた方々にお礼申し上げます。しかしながら、今月号も編集の手違いで発行が遅れましてまことに申し訳ありません。早くに原稿を送ってくださった方にお詫び申し上げます。

しばらく体調を崩されて療養されておられた山田利三郎・紀子さんご夫妻のお元気になられたご様子の記事を拝見し皆さんも大変嬉しく思われたことでしょう。村野さんの連続随筆「私の大切な物」は毎回のことながら、クラブブリテンに相応しい、心温まる記事ですね。ありがとうございます。(S.K)